

---

# 第29回全国公民館セミナー開催要項

---

(平成30年1月16日版)

## 1. 研修テーマ「公民館がひらく 地域の未来」

公民館が設置されて、70年。その間、公民館は、地域や人々の環境の変化とともに、社会の要請に応え、地域社会に大きく貢献してきました。しかし、現在さまざまな課題が顕在化しており、公民館の変革が求められています。そこで、公民館の存在意義やいまの時代の公民館のあり方を確認し、公民館職員として必要な専門的な知識や技能について研修を行います。

## 2. 会期

平成30年1月31日(水)～2月2日(金)

## 3. 会場

国立オリンピック記念青少年総合センター  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL 03-3467-7201

## 4. 主催

公益社団法人全国公民館連合会

## 5. 後援

社会教育団体振興協議会、全国公民館振興市町村長連盟

## 6. 研修プログラム

※プログラム内容は、予告なく変更することがあります。最新情報は、全国公民館連合会のホームページをご確認ください。



### 第1日目【1月31日(水)】

○開講式(13:00~13:10)

○【スペシャル座談会Ⅰ】「公民館がひらく 地域の未来」(13:15~15:00)

公民館が文部省により設置の奨励がなされてから70年が経ちます。公民館がいま以上に大きな役割を果たすためには、公民館は地域でどのような役割を果たしていかなければならないのか。この分野の最前線で活躍する、さまざまな立場の方たちから意見を聞きつつ、これからの公民館の存在意義や新しい役割などについて討議します

登壇・牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科教授)

山崎 亮(株式会社 studio-L 代表、東北芸術工科大学教授、同大学芸術学部コミュニティデザイン学科学科長)

吉田 博彦(NPO 法人教育支援協会代表理事)

【スペシャル座談会Ⅱ】「公民館のこれからを語る」(15:15~17:30)

上記の3人による座談会に、国関係のスペシャルゲストをお招きして、今後の公民館への期待についてお聞きします。

【スペシャルゲスト】

八木和広(文部科学省生涯学習政策局社会教育課長)

吉田 誠(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官)

上田尚弘(東京海上日動企業商品業務部担当課長【厚生省から出向中】)

※元・厚生労働省社会・援護局総務課課長補佐)

北村崇史(柏市役所企画部理事【総務省から出向中】)

※元・総務省地域力創造グループ地域自立応援課課長補佐)

○オリエンテーション(17:30~18:00)

○情報交換会(18:30~20:30)

※会費3,000円

※参加は自由ですが、積極的にご参加ください。

## 第2日目【2月1日(木)】

### ○オリエンテーションとプチ講義（8：45～9：00）

「防災教育を自分ごとに～大災害時のニーズと生活再建の知識の備え」

特別ゲスト：岡本正（弁護士、法学博士、元内閣府上席政策調査員、  
元文部科学省原子力損害賠償紛争解決センター総括主任調査官）

### ○特別講義Ⅰ（9:00～10:45）

「公民館を地域づくりの舞台に —新しい社会基盤としての公民館—」

講師：牧野篤（東京大学大学院教育学研究科教授）

公民館がこれからどうすべきなのか、現在の社会情勢や国の動き、また公民館の現状やその他の公民館的な活動状況を踏まえながら、考えます。

### ○ワークショップ「自分たちの公民館ものがたりをつくる」

(11:00～12:30、13:30～17:30)

講師：栗山宗大（脚本家／ものがたり法人 FireWorks 取締役）

映画を通してまちづくり、地域づくりをおこなっている「ものがたり法人 Fireworks」の新進気鋭の脚本家栗山宗大氏による「ものがたりづくり」ワークショップ

「公民館ものがたり」ゲストスピーチ

田中典子【福井市社北公民館主事】

河内ひとみ【大竹市立玖波公民館主事】

全国で日本一となった公民館のストーリーを参考にしながら、グループワークをとおして自分たちの公民館のものがたりをつくっていきます。「こんな公民館にしたい」という理想と、なかなかそれを実現できない現実のなかで、私たち職員はどのようなことをめざし、考え、そして日々実践すべきなのかを、みんなで一緒に考えます。

### ○特別映画上映会（18:30～20:30）【参加自由】

映画「惑う —after the rain—」上映&トーク

講師：栗山宗大（脚本家／ものがたり法人 FireWorks 取締役）

映画を通してまちづくり、地域づくりをおこなっている「ものがたり法人 FireWorks」が制作した、「家族」をあらためて見つめ直す映画です。静岡県三島市を舞台に、地域やふるさと、家族などを考える映画となっています。上映後には、この映画の脚本を書いた栗山宗大氏に、地域づくりや家族などについて語っていただきます。

#### 【映画「惑う」紹介】

ストーリーは時代を遡りながら、この家族に隠された秘密と、強い絆で結ばれた家族愛を描き出していく。

監督は北野武や黒沢清の助監督として修行を重ねた林 弘樹。脚本は林と一緒に人間を深く掘り下げ、丹念なものがたりづくりに没頭する栗山宗大。心を揺さぶるドラマづくりの名手として、次世代映画づくりの筆頭として注目を集めている。

家族とは何か。人生の喜びとは何か——。日本社会が抱えてきた家族制度の光と影を描きながら、普遍的な人間愛を謳い上げた、ヒューマンドラマの映画です。

## 第3日目【2月2日(金)】

○オリエンテーション(8:50～9:00)

○特別講義Ⅱ(9:00～9:30)

「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」

障害者が生涯にわたり自らの可能性を追求できる環境を整え、地域の一員として豊かな人生を送ることができるようにするために、公民館で何ができるかを考えます。

講師:橋田裕(文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課障害者学習支援推進室長)

○ミニシンポジウム

「若者がつどう・まなぶ・むすぶ公民館」(9:40～11:50)

全国の公民館で「若者が集まってくれない」ことが大きな課題となっています。地域の未来を担う次世代を育成・支援するために、公民館はどのような役割を果たし、何をすべきなのかを考えます。

コーディネーター:三瓶千香子(桜の聖母短期大学キャリア教養学科准教授)

【ゲストスピーチ】

前田学浩(高知県・南国市立稲生ふれあい館[稲生公民館]顧問)

安西裕紀(福島県・福島市吉井田学習センター主事)

宮城潤(沖縄県・那覇市若狭公民館館長)

○閉講式(11:50～12:00)



## 講師プロフィール

### ■牧野 篤(まきの あつし)

東京大学大学院教育学研究科教授

愛知県生まれ。博士(教育学)。専門領域は、社会教育学・生涯学習論で、日本のまちづくりや高齢化と過疎化問題に関心がある。最近では、自治体と一緒に公衆館や生涯学習の共同調査を行ったり、多世代交流型コミュニティの構築を進めたり、さらには企業と一緒に「ものづくりの社会化」プログラムなどを運営したりするなどの調査を進めている。現在、文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員。

### ■吉田 博彦(よしだ ひろひこ)

特定非営利活動法人 教育支援協会代表理事

大阪府生まれ。平成9年教育支援協会の設立に参画。同11年経済企画庁(当時)の認証を受け全国組織の特定非営利活動法人教育支援協会代表理事に就任。市民参加による教育づくりをすすめるため、「放課後からの教育改革」を提唱し、全国各地でさまざまな社会教育事業をおこし、地域教育力の育成による教育改革をすすめている。また、社会教育の推進のため、地域人材を活用した学校教育、新しい時代に対応した公衆館、新しい公共とNPOなどをテーマにして全国で講演活動なども行っている。東日本大震災では、原発事故を受け、福島県の子もたちに思いっきり遊び、育つ場を提供すべく「ふくしまキッズプログラム」を立ち上げた。

### ■山崎 亮(やまざき りょう)

株式会社studio-L代表、東北芸術

工科大学教授(コミュニティデザイン学科長)

愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士(工学)。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。

著書に『ふるさとを元気にする仕事(ちくまプリマー新書)』、『コミュニティデザインの源流(太田出版)』、『縮充する日本(PHP新書)』、『地域ごはん日記(パイインターナショナル)』などがある。

### ■八木 和広(やぎ かずひろ)

文部科学省生涯学習政策局社会教育課長

平成6年4月文部科学省生涯学習政策局社会教育課、平成9年9月体育局学校健康教育課健康教育企画室企画・健康教育係長、平成13年7月スポーツ局生涯スポーツ課地域スポーツ振興専門官、平成15年7月生涯学習政策局男女共同参画学習課課長補佐、平成16年4月在オーストラリア大使館一等書記官、平成22年4月香川県教育委員会教育次長、平成28年4月スポーツ庁政策課学校体育室長を経て、平成29年7月より現職。

### ■吉田 誠(よしだ まこと)

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官

平成3年農林省(現:農林水産省)入省。農地政策、食品産業政策、畜産政策等の担当、石川県庁への出向等を経る。その後、平成20年東海農政局岐阜農政事務所長、平成21年首相官邸出向(総理補佐官秘書官)、平成23年林野庁国有林野事業改革チーム調査官、平成24年ハーバード大学客員研究員、平成25年林野庁 林政部経営課課長、平成26年林野庁木材利用課課長を経て、平成28年より現職。

**■上田 尚弘(うえだ なおひろ)****東京海上日動 企業商品業務部担当課長**

昭和51年生まれ。平成11年厚生省入省。平成21年厚生労働省年金課課長補佐、平成23年北海道庁に出向し、高齢者福祉や障害者福祉を担当する。平成26年厚生労働省社会・援護局総務課課長補佐、平成27年厚生労働省会計課課長補佐を経て、平成28年より厚労省から官民交流制度により東京海上日動へ出向中。

厚生労働省係長時、介護予防を導入した介護保険法改正し、北海道庁出向中には、地域包括ケアを推進するための北海道計画の策定や市民後見人の養成、社会・援護局時において、地域公益活動を求める社会福祉法人改革に従事し、地域包括ケアや地域づくりに関する制度づくりに従事した。

現在は、損害保険会社の立場から、後見向け保険商品の開発などに従事し、企業の立場から、地域づくりに関わっている。

**■北村崇史(きたむら たかし)****柏市役所企画部理事**

平成6年4月自治省入省、平成8年4月和歌山県庁市町村課、平成10年4月自治省財政局指導課、平成12年3月危険物保安技術協会総務係長、平成13年10月総務省自治行政局地域情報政策室電子自治体推進係長などを経て、平成21年4月総務省地域力創造グループ地域自立応援課主幹、平成27年4月総務省地域力創造グループ地域振興室課長補佐、平成29年4月から現職。住民主体の地域課題解決型組織である「地域運営組織」の担当補佐として、地方財政措置の創設や、有識者会議の運営等(平成27・28年度)を担当した。また、文部科学省・内閣府とも連携し、地域運営組織の活動拠点としての公民館の役割や期待されること等を検討。

地域のさまざまな現場で、ファシリテーターとして地域と行政等のワークショップを運営し、現場を大切に活動した活動を心がけている。

**■岡本 正(おかもと ただし)****弁護士**

銀座パートナーズ法律事務所パートナー弁護士。2003年弁護士登録。マンション管理士、AFP(アフェリエイトッド・ファイナンシャル・プランナー)、医療経営士、防災士、防災介助士も保有。2011年3月11日の東日本大震災以降、出向勤務していた内閣府や文部科学省において災害復興政策や防災危機管理分野に携わった経験、日弁連災害対策本部室長を兼務した経験から、「災害復興法学」を創設。2012年より慶應義塾大学法科大学院非常勤講師等を務める。授業が評判となり中央大学大学院客員教授も4年間務めた。

2017年に災害復興法学の研究論文により博士(法学)の学位を取得する。災害復興支援から明らかになった5万件を超える被災地の「リーガルニーズ」を背景に「ひとつづくり」の研修プログラムを開発し、幹部研修・新入社員研修・防災研修・BCP研修を、産学官のあらゆる組織に向けて実施。防災や危機管理に強いイノベティブな人材を作る『自分ごと防災研修プログラム』が好評を博している。公職・執筆・メディア等も多数。

**■栗山 宗大(くりやま むねひろ)****脚本家、FireWorks 取締役**

1978年、東京都生まれ。全国各地でロングラン上映を続ける「ふるさとがえり」をはじめ、数多くの映画作品の企画・脚本を手がけている。高校時代は陸上競技に没頭、本気で五輪マラソンを夢見ていたが、あえなく挫折。あてのない人生になりかけるが、たまたま入部した大学の演劇部で、たまたま脚本を執筆。以来、さらにあてのない人生を歩むこととなった。

2003年に起業した「ものがたり法人 FireWorks」は映画製作の新たな可能性・仕組みを探求し、日本初となる「市民参加型映画事業」では、日経地域情報化大賞 MJ賞や地域づくり総務大臣表彰

を受賞。近年の作品ではアジア・太平洋の子供達の心を繋ぐ「空飛ぶ金魚と世界のひみつ」は全国劇場・世界 30 カ国で上映。最新作は女性たちの物語を描いた「惑う After the Rain」。

普遍的な人間ドラマを、丹念な取材、独特の構成力で描く脚本家。2人の男児の父でもある。日々、育児に奮闘中。

### ■田中 典子(たなか のりこ)

福井市社北公民館主事

社北公民館は、地域密着型の公民館として、地域の団体や住民と密接にかかわりあいを持ちながら事業を展開。さらに世代を超えた幅広い地域のニーズを事業に取り入れていくために、PDCA サイクルで事業を取り組んでいる。「チャオカード作戦」はその特徴的な活動としてたいへん有名。チャオカードとは、「いっちゃお」「やっちゃお」「あつめちゃお」という意味を含めたポイントカードで、講座への参加意欲促進につながる、さまざまな工夫や努力を行っており、若い世代の参加が大幅に増えた。

### ■河内 ひとみ(こうち ひとみ)

大竹市立玖波公民館職員

玖波公民館はかつて、事業がマンネリ化し、新規の来館者が少ない状態だった。そこで、公民館のイメージアップを図る「おしゃれな学び空間」として、「学びのカフェ」を創設。自由に語り合うカフェタイムを設けるなど、参加者の交流を図り、住民同士の絆を深めた。また講座内容にも工夫を凝らし、タイムリーで魅力的な講座を企画し、大幅な刷新を図った。その結果、若者や中学生など、今まで来館したことがない参加者が激増し、まちを元気にする「地域ジン」が誕生。毎月の講座の手伝い、オリジナルTシャツ、テーマソング、地元の飲食店マップ「見知らんガイド」など次々と作成。その後、空き古民家を利用した「古民家 de カフェ」を開き、さらに、地域総出演のファッションショー「くばコレ」の開催や、「KUBA シネマ」開催へと続き、地域を騒がせている。

### ■橋田 裕(はしだ ひろし)

文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課  
障害者学習支援推進室長

平成12年4月文部省教育助成局地方課、平成13年1月文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課、同年4月国際教育課、平成15年4月文化庁文化財部伝統文化課企画係長、平成18年1月文部科学省高等教育局国立大学法人支援課企画係長、平成19年7月文部科学省高等教育局国立大学法人支援課専門官、平成21年4月秋田県教育庁保健体育課長、平成22年4月秋田県教育庁義務教育課長、平成24年4月文部科学省初等中等教育局教育課程課、教育課程企画室専門官、平成26年10月高等教育局大学振興課大学入試室長心得、平成27年7月高等教育局大学振興課大学入試室長、平成29年4月から現職。

### ■三瓶 千香子(さんぺい ちかこ)

桜の聖母短期大学キャリア教養学科准教授・桜の聖母  
生涯学習センター長・地域連携センター長

1974年福島県(郡山市)生。2000年上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程前期修了。学位は寺中作雄の公民館構想に影響を与えた田澤義鋪の思想研究。桜の聖母短期大学では、アクティブラーニングを研究しながら、教育学、キャリア教育、地域教育を担当。桜の聖母生涯学習センターでは、開放講座の企画・運営を担当。

2007年より南相馬市市民リーダー養成講座の講師として市民リーダーの育成支援、震災後は、同大の「福島学」の一環として、南相馬市内の高校生と同短大学生との「高大連携」による地域の復興の取組みを支援。福島県生涯学習審議会委員、南相馬市教育振興基本計画策定会議の有識者委員。第8期中央教育審議会生涯学習分科会学習成果活用部会専門委員などを務めた。福島市

アクティブシニアセンターアドバイザー、KFB福島放送番組審議員、日本青年館評議員、福島県明るい選挙推進協議会委員。

**■安西 裕紀(あんざい ゆうき) 福島市吉井田学習センター主事**

1992年福島県生まれ。平成23年に福島市役所に入庁し、財務部市民税課で4年間勤務。その後、人事異動により平成27年から吉井田学習センターで勤務。主に少年教育・青年教育・家庭教育を担当。平成28年には新たな取り組みとして、小学生を対象とした「夏休み防災キャンプ」を開催。地域住民等の協力を得て実施することで、災害に強い地域づくり及び地域の絆づくりにつなげている。  
また、地元の大学と連携し、若者を公民館に呼び込むための取り組みなども行っている。

**■前田 学浩(まえだ みちひろ) 南国市立稲生ふれあい館顧問**

1962年、高知県生まれ。日本IBM㈱に9年間勤務後、Uターン。デザイン・企画会社を経て、07年より、高知県南国市議会議員(前議長)。  
04年4月、稲生ふれあい館の運営審議委員長に就任。05年に稲生小学校PTA会長に就任直後、PTAをPTCA組織に改組提案、翌年4月にPTCA設立。以来、公民館と小学校という学びの施設を核とした地域づくりを推進。08年5月、学校支援地域本部事業、13・14年8月公民館GP、14年6月高知県版の小さな拠点事業である集落活動センター、16年8月より、地域学校協働本部事業へと昇華。本セミナーご登壇の山崎亮さん著書『縮充する日本』第9章にある参加型社会への推進力としての「教育分野でのコミュニティデザイン」に日々取り組んでいる。

**■宮城 潤(みやぎ じゅん) NPO 法人地域サポートわかさ理事・事務局長、那覇市若狭公民館館長**

2006年那覇市社会教育指導員として若狭公民館に勤務。2007～2009年若狭公民館非常勤館長。2010年～2014年一部業務受託団体(NPO 法人地域サポートわかさ)公民館事業部長。2015年指定管理者制度導入に伴い、NPO 法人地域サポートわかさが指定管理者となり、再び館長となる。若狭公民館勤務12年目。運営体制移行もあり職名を4回変更。その間、全国公民館ホームページコンクール最優秀賞2回、優秀賞1回、全国公民館報コンクール優秀賞1回、優良賞1回。2015年に第1回全国公民館インターネット活用コンクールにて最優秀賞を受賞。

**【スケジュール】**

**1日目**

- 13:00～13:10 開講式
- 13:10～17:30 スペシャル座談会
- 17:30～18:00 オリエンテーション
- 18:30～20:30 情報交換会

**2日目**

- 8:45～ 9:00 オリエンテーションとプチ講義



9:00～10:45	特別講義Ⅰ
11:00～12:30	ワークショップ
12:30～13:30	昼食
13:30～17:30	ワークショップ
18:30～21:00	特別映画上映会+トーク(参加自由)

### 3日目

8:50～9:00	オリエンテーション
9:00～9:30	特別講義Ⅱ
9:40～11:50	ミニシンポジウム
11:50～12:00	閉講式

7. 参加資格 (1) 各都道府県公連から推薦を受けた者  
(2) その他主催団体会長が認めた者

8. 参加費 無料

9. 参加方法

各都道府県公連の推薦者のなかから、参加者を決定します。

※推薦書の締め切りは各都道府県公連ごとに異なりますが、全国公民館連合会へは必ず12月15日(金)までにご連絡をお願いいたします。

※全国公民館連合会直接の受付は、原則としておこなっておりません。

10. 参加にあたって

(1) セミナー期間中の宿泊は、オリンピックセンター内に確保いたします(無料)。ご希望のかたは、参加者推薦書にてお申し込みください。ただし研修施設のため、一般のホテルのような設備やサービスはありませんので、ご了承ください。部屋はD棟になります。

※ なお、宿泊は必ずしもオリンピックセンターでなくてもかまいませんが、ご自身で宿泊を別取る場合、ホテルの斡旋や費用補助はございません。

(2) 会場の詳細や概要、+アクセス方法などは、国立オリンピック記念青少年総合センターホームページ(<http://nyc.niye.go.jp/>)でご案内しておりますので、ご確認ください。

(3) 原則、全日程の参加をお願いします。

(4) 何かご相談、ご不明な点がございましたら、お気軽にご連絡ください。

11. 問い合わせ

公益社団法人全国公民館連合会 担当:村上 英己(むらかみ ひでき)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-8

TEL:03-3501-9666/FAX:03-3501-3481

E-mail:murakami@kominkan.or.jp